

## シリーズ・【馬電の思い出】

### ③ 我が慈父のごとき奥田さんの思い出

水戸 友康 記

奥田さん！あれほど長い間可愛がって頂いたあなたの死を2ヶ月近くも知らずにいたことを心からお詫び申し上げます。

然し、誰にも知らせず「一人静かに逝く」というのはいかにも奥田さんらしいとも思いました。

去る3月25日の午後、私はせめてご焼香だけでもと思い大宮のご自宅を訪ねましたが、堅く戸締りがしてあり、それは叶いませんでした。駅に戻る途中、春先にしては暑いほどの夕陽に汗ばみながら受け取る人を失った花束がずしりと両手に重く、何とも淋しく、暗い気持になるばかりでした。

思えば昨年1月、ご機嫌伺いに出した寒中見舞いに喜んで電話を下さり「足腰は弱っているが元気だよ。ボケ防止に例の競馬とTVの囲碁と将棋の番組を見るのが楽しみでな。ところで馬電の状況はどうだい？」と馬電を心配しながらも明るくお話をしてくれたではありませんか。

そんな奥田さんの訃報に接し、何故か悲しみよりも「淋しさ、寂しさ」に襲われたのでした。

奥田さん！あなたは私をとっても可愛がってくれましたね。まるで自分の子供に接するがごとく、優しく慈愛に満ちた人生の師でもありました。

今静かに振り返り、あなたへの思い出に浸っております。

入社間もなくの頃、大きなワシ鼻を指でつまみながら持て余し気味の巨体からいつもYシャツをはみ出させながら優しい眼差しで我々をみつめていてくれましたね。今ならさしずめ「ハミダシ王子」という渾名がついたことでしょう。

あなたはS45年第三代目所長就任にあたり、「私は誰よりも群馬製作所を愛し、群馬製作所と共に生きてきたつもりであります」と力強く挨拶文に書かれました。その後も折に触れ、「ワシは常に従業員の仕事の確保を第一に考えている。それは仕事がなければ従業員が困るだけではなく、その家族が路頭に迷うことになり、それだけは絶対に避けねばならぬと常に考えている」と話されておりました。そこに従業員を思うあなたの優しさが溢れておりました。

私が経理にいた頃から何かとご指導を頂きました。ある時は厳しく、ある時は教え諭すように優しく、どれだけ多くの言葉、助言を頂いたことでしょう。

「水戸君、間違っても『経理屋』にはなるなよ。駄目な経理屋というのはタテ、ヨコのバランスを合わせて喜んでいるが、経営というものはそんな甘いものではない。研究開発や設備投資はlogarithmのグラフのように決してリニアにはならないし、損益に至ってはtangentのグラフのように $-\infty$ から $+\infty$ までであるではないか。そういう奥の深さを理解できる経理マンになれよ」これが会社人生における最初のご指導の言葉でした。

ある時、経理Kの芹沢さんのところに来て「セリさん、また少し小遣が足りなくなったよ」といって何やら特殊オーダーをもらって出金伝票を切っているのを知り、不思議に思いましたが、ずうっと後になって奥田さんの類い稀なアイデアと開発力に期待し、我々部下にも内緒で開発費を予算化していたいわば「奥田さん専用の経理K機密費」ともいべきものだど判り、これこそが経理の真髄と感心もし、肝に銘じたことでした。

また、あなたは早くから電子化時代の到来を予測し、周到な準備の上円盤ディスクの切削研磨加工技術蓄積⇒**(防)**のワイヤーハーネス組み立て⇒小型電子計算機組み立て⇒電子工場への転進拡大を企図されたのでした。更に健康食品時代の到来をも予測し、しいたけを中心とする「きのこ栽培」の研究も始め、有名な先生を招きご進講を受けたり、下請けの倉庫に密かに「おがくずによるビン詰め栽培」を進め、夜遅く現場確認に連れて行って頂きました。

然し、残念ながらこの二つのアイテムは江戸大奥から「本業をおろそかにするな」という横槍が入り頓挫してしまったことは歴史のいたずらだったのでしょ

また、私が生意気にも当時としては画期的というよりは破天荒ともいべき、松下電器との間で、アイロンの OEM の契約（当時は OEM という言葉は使われておらず、私が勝手に『水平分業』と命名しました）をまとめるという難題に取り組み悩んでいた時、自らの経験に鑑み 次のような助言を頂いたのです。「ワシが名電時代、積水化学と扇風機の羽根のプラスチック化の共同開発をした時、本当にこの会社を信用してよいのか大いに悩んだが、最後はお互いに技術屋としての誇りと信頼関係に賭けるしかない」と割り切って結局成功したが、君はそういう信頼できる相手と交渉しているか？」と問われ、私も「会社を疑ったらきりがない。最後は窓口の相手を信用するしかない。幸い先方には営業 K の I 氏と業務 K の M 氏がいるので、この二人の誠実さに賭けたい」と答えたのでした。

この話は事業部段階で結論が出ず進藤社長までいったが結局「中川 M と奥田 FM に任せろ」という結論になってしまったとあなたは笑い飛ばされました。

（これには後日談があり、松下の方でも三菱と組んで本当に大丈夫か？となり、とうとう幸之助さんまでいってしまったと3年後に聞いて大笑いをしましたね）。

このようにあなたが残してくれた思い出は数知れませんが、最後にいくつか開発関係やお人柄に関するお話で終わりにしたいと思います。

- 「ワシは凶面が下手くそで苦労したが、『常に現場が造り易い凶面』を書くよう努力したつもりだ。それは名電時代試作の班長さんにとってもお世話になり、アイデアをポンチ絵にした程度の段階で彼のところに持ち込んで何やら形にしてもらいながら、助言をもらい設計図を完成させていった経緯があり、今でも尊敬している」とのお話が印象的でした。
- 「温水器の開発について大抵の人が『いつでも熱いお湯が出てお年寄りには最適の製品ですね』というがワシは全く違う発想だった。若いときに洋画を沢山見たが、必ずといってよいほど彼らは SEX の前後にシャワーを浴びるのが習慣となっており、何れ日本人にもこういう時代が来ると信じ、そういう機器を若い人達に提供したかったのだ」との秘話？を教えてくださいました。
- 電子レンジのマグネトロンを購入していた新日本無線が「どうも設備を廃却しこの事業から撤退したいようだ」という情報をキャッチしてきたら「水戸君、直ちに先方と交渉しタダ同然で設備を買ってこい」と厳命が下り、一担当者が先方の常務とサシで交渉し何とかまとめて第4工場での内作化が実現したのでした。
- 電気毛布の焼損事故防止のため、ヒーター自動挿入機の開発を生産技術に命じられる一方、私に密かに毛布にヒーターを織り込む織機とそれを起毛出来る特殊技術の開発を命じられました。そのため泉州地区の毛織メーカーに密かにもぐり込んだり、目をつけた織機製造の技術屋を隔離し屋根裏のようなどころで開発に当らせ、時々深夜に私が酒とつまみをもって激励と監視に訪れるという「忍び」まがいのことも経験させられました。
- オイルショックの時にあなたが示された工場経営のトップとしての責任感、同じ立場の人への思いやりに感動を覚えたこともありました。あの時、あなたは突然「水戸君、至急 ABS の材料を買えるだけ買って余裕はすべて中電へ分けてやってくれ」と命じられ、必死の思いでレジンを買集め、かなりの量を中電に届けました。間もなく「中電Mより感謝の電話があったよ。敵に塩ではなく、味方に塩だな！」と破顔一笑されたものでした。

思い出は尽きません。優しくあったあなたの思い出は尽きません。類い稀な豊かな発想と技術を見つめる厳しい目、最後は「えいつ！なにくそやっしまえ！」という思い切りのよさと「そうは言っても、、」という相手への思いやりが絢い交ぜの不思議な魅力の奥田さんでした。

そんなあなたに、長い間可愛がって頂き本当に有難うございました。

奥田さん！ 今年のダービーの予想は当たりましたか？ …… さようなら、奥田さん！ 合掌

<訂正> 菱の実会だより 182 号の会員投稿「Tokyo 漫歩(新撰組)」の記事で、「高輪不動尊」とあるのは、「高幡不動尊」の誤りでした。訂正いたします。